

2026 年 6 月 30 日

学校法人三幸学園
東京みらい AI&IT 専門学校
校長 本多 浩一 殿

学校関係者評価委員会
委員長 高橋 和紀

学校関係者評価委員会実施報告

2025 年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 高橋 和紀 (株式会社システムシェアード)
- ② 平井 宏子 (SANKO 日本語学校 専門課長)
- ③ 植竹 幸太 (第 3 期卒業生)

2 学校関係者評価委員会の開催状況

2026 年 6 月 16 日 (会場 東京みらい AI&IT 専門学校 20B 教室)

3 学校関係者委員会報告

以下「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

2025 年度 学校法人 三幸学園 東京みらい AI&IT 専門学校 自己評価ならびに学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 小川大輔

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 高橋和紀

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、AI・IT 分野の学校として「AI・IT を通じて日本を明るく元気にする」と言うビジョンを掲げ、「AI・IT を通じて人に感謝され、持続可能な社会に貢献できる人材を育成する」といった人材育成方針を掲げている。また、「社会で活躍するために、専門分野における新しい知識や技術の習得に努力を惜しまない人」「素直な 気持ち、感謝する気持ち、思いやりのある人」「自ら未来を切り開いていこうとする情熱と夢を持ち続け、仲間 と協力して目標を達成しようと努力する人」をアドミッションポリシーとして掲げ、その実現に向けて生徒指導を 展開している。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

◇教務

・退学率 10%以下を目指す。特に 1 年生の退学者を減らしていきたい。

→結果 2025 年度は 1 年生 11.4%、2 年生 3.9%、全体で 8.5%

◇就職

・1 年生→夏休みからの短期インターンシップへの参加者を増やす。

・2 年生→7 月末で 50%の就職内定率、12 月末で 92%、卒業時まで 100%の内定率を目指す。

→結果 2025 年度は 7 月末で 56.9%、12 月末で 86.3%、卒業時で 96.1%

◇広報

・入学者増員を目指す。

2021 年度 65 名→2022 年度 95 名、2023 年度 100 名、2024 年度 148 名で、2025 年度は 203 名。

2026 年度は目標 250 名のところ 202 名の入学。

2027 年度入学者目標は 220 名。

② 学校関係者評価委員会コメント

(佐藤さん)留学生は、JLPT の資格を取得がないと就職が難しいのが現状。

(平井委員)JLPT とは別の試験があって、生活圏の中での困らないような判断をする資格があるがその資格については、世間にはまだ広まっておらず、現状企業様が求めているレベルとは差異が大きい。

(佐藤さん) 本校にも日本語が話せるが、JLPT の試験を持っていない学生がいたが、やはり JLPT を有していないと、そもそも企業様へエントリーすることもできない。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3

① 課題

特になし

② 今後の改善方策

特になし

③ 特記事項

◇学園内の姉妹校と比較しても、入学者の属性(高校種別、生活状況)などについて特徴があり、入学時に通学・学校生活に不安を持つ学生が多い。毎年入学前や直後の保護者説明会にて質疑応答含め丁寧に対応し、入学後の不安を取り除けるようにしている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

(佐藤さん)AI校は開校6年目となり、今回参加している卒業生の植竹さんは3期生。最近、時代の流れもあって、通信制出身の割合が多くなってきている。対面の授業に慣れていない学生が多くなっているが、適切な環境を提供しながら実施してきた。ただ、最近、他の姉妹校と同じような水準に近付いてきたような印象。

(植竹委員)中学生、高校生の時は、病気が原因で、朝が苦手で、飛鳥未来に入った。そのきっかけもあってAI校に進学を決めた。

(佐藤さん)通信制だけではなく、全日制、留学生も募集している状況。

(高橋委員)講師のメンバーにとっては、TKAIが登竜門となっている。

(植竹委員)講師(シェアード様)はとても話しやすい雰囲気で大変助かった。

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	3
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

◇留学生の入学が増加したことで留学生のみの学科の運営、及び日本人と合同のクラス、それぞれで必要とされる指導内容や意識させるべきことも違うため、教職員側も改めて生徒指導に係る意識統一や環境整備などが急務である。

② 今後の改善方策

◇各学科や学年ごとに、担当する担任や講師陣などのチームによる継続的かつコアな情報共有と同時に、学校全体で必要な情報共有も適切に発信していけるようにする。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

(佐藤さん)留学生が増えているのが現状。日本人と留学生が半々。指導や就職等、手探りの状態。

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	2
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	3
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

① 課題

- ◇留学生に対する就職指導及び就職先の開拓が現状まだ十分ではない。
- ◇1 年次の夏休み段階で、就職活動と連携したインターンシップへの促しが不足している。
- ◇1 年次から 2 年次に進級する際（主に春休み期間）の就職活動において、早期かつ自主的な活動が十分に促進できていない。

② 今後の改善方策

- ◇卒業生を採用いただいている企業様や既存の繋がりのある企業様以外に、企業説明会などを通じて関係構築の拡大を図る。
- ◇ビッグネームと呼ばれる大手企業からの求人獲得や関係構築。また、就職実績を作る。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

（佐藤さん）1 期生を除いて、学外実習は実施していない。1 期生の時は学生、企業ともに準備が出来ていなかったため、現在は実施を見送っている。実習を行うことで、企業とのつながりが強くなると考えているが、現状は実施できていない。昨年度の日本人学生の就職率は 100%となっているが、そろそろビッグネームと呼ばれるような企業

への内定者も排出していきたい。

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	3
資格（免許）取得率の向上が図られているか	2
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

- ◇就職率向上への取り組み。退学率低減(特に1年次)への取り組みおよび卒業生サポートの充実。
- ◇業界・企業との連携による人材育成・キャリアアップシステムへの理解を深める。
- ◇各資格の受験率および合格率の向上。

② 今後の改善方策

- ◇毎週企業様を授業の中で呼びし、企業様との接点を増やす。
- ◇授業外でサポートをしてもらえるような場所(オフィスアワー)や講座(資格塾)を開催する。
- ◇2027年度以降で資格の体制を変更(受験資格を変更)

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

(佐藤さん)資格の取得率が低い。

(植竹委員)受験日を指定してもらえれば、よかったと考えている。あらかじめ決まっていれば、強制的に頑張れると思う。

(佐藤さん)次年度は資格取得に関する体制を変更。受験日を指定して、学校で受験できるようにする予定。

(植竹委員)資格対策の授業内で、先生によって授業の質に差があり、その点が困った。

(佐藤さん)学校で教員を確保することが困難。スキルはあるが、教員としての資質がある方は、非常に少ない。システムシェアード様の講師の質は非常に高い。講師募集をすると、教えられるスキルを持っている方が少ない。

(平井委員)日本語学校でも同様で、学生に「何かしてあげたい」という気持ちは強いが、教員としての資質を備えているかという、何とも言えない。

(佐藤さん)学生への思いやりも大切だが、卒業後に自立していくための指導も必要であり、そのバランスを取るのは難しい。

(5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	3
学生相談に関する体制は整備されているか	3
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
学生の生活環境への支援は行われているか	3
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	2
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3

① 課題

- ◇メンタル不全者や日本語能力に乏しい留学生へ対する適切な理解やサポート体制の整備。
- ◇担任以外も含めた相談しやすい環境づくり

② 今後の改善方策

- ◇メンタル不全者に対しては、担任を中心に保護者の協力を得ながら実施。
- ◇日本語能力に乏しい留学生へ対しては、時間割外で留学生向けのサポート授業を実施。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

（佐藤さん）留学生サポートについては、新たな施策を実施しているほか、メンタル不全者については、担任を中心に、保護者の協力を得ながら支援を行っている。

（植竹委員）担任には相談したくないものの、他の先生には相談できる学生や、「先生方は信頼できない」と感じている学生もいたため、無理に関わりとうしないことも一つの対応策ではないか。ただし、学生によって状況は異なるため、一概には言えない。

（蓮沼委員）まずは学生一人ひとりを理解することが重要である。

（平井委員）日本語学校でもメンタル不全者がいる。何ができるのかを模索しているが、文化・価値観の違いもあり、踏み込みにくい部分もある。そのため、日本での生活を「楽しい」と感じられるような機会や環境を提供したいと考えている。

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	2
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	3

① 課題

特になし

② 今後の改善方策

特になし

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

（佐藤さん）学内の設備は若干老朽化しているので、今後大規模修繕を検討していく予定。

（高橋委員）大宮校と比較すると、若干老朽化はあるが、大きくは変わらないように感じる。

(7)学生の入入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	3
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

特になし

② 今後の改善方策

特になし

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

（佐藤さん）時には卒業生にも協力していただきながら、適切にオープンキャンパスを運営しております。

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

なし

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

2025 年度は第3期中期経営計画(2023 年度～2027 年度)の 3 年目にあたり、東京未来大学及び小田原短期大学の中期計画改定を反映し、第3期中期経営計画＜第 2.0 版＞を策定し年度開始時より適用した。中期経営計画及びその進捗状況はホームページ上に公開している。

④ 学校関係者評価委員会コメント

なし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

特になし

② 今後の改善方策

特になし

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	2

① 課題

◇積極的な地域貢献活動の実施

② 今後の改善方策

◇在校生も含めて姉妹校とも連携し、地域貢献活動に参画できるように準備を進めていく。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

（佐藤さん）現状は社会貢献が出来ていない。AI 分野として何ができるのかについて考えることから始める必要がある。

（平井委員）社会貢献のビジネスとして、公共の学校との連携は難しいため、私立との連携を図っている。プログラミングの教室等を実施。自治体によって取り組み状況が異なるため、一概には言えない。

（佐藤さん）公立の高校から「プログラミングの授業を実施できないか」という依頼はたまにある。

（平井委員）弊社でもスポットでの講師派遣事業も展開している。

(11)国際交流(必要に応じて)

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	4
受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	4
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	2
学内で適切な体制が整備されているか	2

① 課題

◇留学生のみのまだ日本語能力が低いクラスの授業や運営、また普段の生活指導などにおいてコミュニケーションや文化の違いもあり苦戦を強いられている場面が散見される。

② 今後の改善方策

◇特に留学生クラスにおいては、担当講師一人では目が行き届かないことも多く、できる限り運営メンバーなどで授業の巡回をしてサポートするようにしていく。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

（佐藤さん）急激に留学生が増加している状況で、受け入れ体制はまだ整っていない。また、留学生の受け入れのラインも厳格化してきている。入学後は日本人と学ぶため、入学時のタイミングで判断させてもらっている。そのため、入学のハードルは上がっている。

（平井委員）Sanko 日本語学校から2年制課程へ進学できる学生は、ほんの一握り。

（佐藤さん）IT ビジネス科を設立したが、1年間の学びでは限界があるので、そこを見越して入学可否を判断せざるを得ない。語学力面で進学が難しい。

（平井委員）日本語学校では、現状飽和状態。語学力は問わない学校があるので、そこはすぐに埋まってしまう。首都圏がすぐに募集が定員満了になり、最終的には、帰国するか地方に行くかとい選択になる。

（佐藤さん）学園として、入学させたいのできちんと指導ができ、卒業まで導いていける見込みがあるかどうかを判断している。ただ、現状ビザ更新後に、連絡不通となってしまう学生もいる。学校側はこのような事態を防ぐために管理をしている。加えて入学時にも判断させてもらっている。日本人学生と留学生が相乗効果で成長できるような環境を整えていきたい。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

委員からは、時代の変化や産業構造の変化を踏まえつつも、学生にとって不利益が生じないような教育・支援の重要性が示された。また、AIの普及によりIT業界の環境が大きく変化しており、従来のIT企業に加えて大手企業の情報システム部門などでも採用ニーズが高まっているとの意見があった。こうした状況を踏まえ、変化する社会や企業ニーズに対応しながら、学生の進路選択の幅を広げる取り組みが求められる。